

# 「新たな中学校」の整備イメージ(案)について



令和8年3月  
有田町 学校教育課

# 1. 歴史と文化の森公園の概要

## 公園の成り立ち・基本情報

- 1996年(平成8年)の世界炎の博覧会のメイン会場
- 有田・西有田の歴史と文化のシンボルとして炎の博覧会後も整備が続けられた。

## 地域文化・学びの体験

- 公園内のモニュメントには有田焼が多く取り入れられている。
- 炎の博記念堂はコンサートも開催される文化ホールと多目的に使用できるコンベンションホールを併設。

## 公園の特徴・見どころ

- 噴水広場には故岡本太郎氏の遺作となったモニュメント「花炎」が設置されている。
- 広大な芝生広場、冒険の森、遊びの広場、花の森、匠の広場などのゾーンを設置し、多様な利用が可能。

## 利用環境・運営情報

- 公園開園時間  
07:00~19:00 (3/1~9/30)  
07:30~18:00 (10/1~2月末)
- 炎の博記念堂開館時間  
09:00~22:00



### 3. 「公園」と「新設校」の共存に向けた方向性を踏まえた配置方針(案)

#### 互いの価値を高め合う「共生」可能な配置

##### 既存の公園機能の継承と最適化

建設により失われる遊具は、「花の森」「芝生広場」へ移設し、憩いの空間を確保。

##### 自然環境を活かした「生きた教材」の活用

校舎を「冒険の森」「遊びの広場」に近接させて、森林環境を学べる場として日常的に活用。

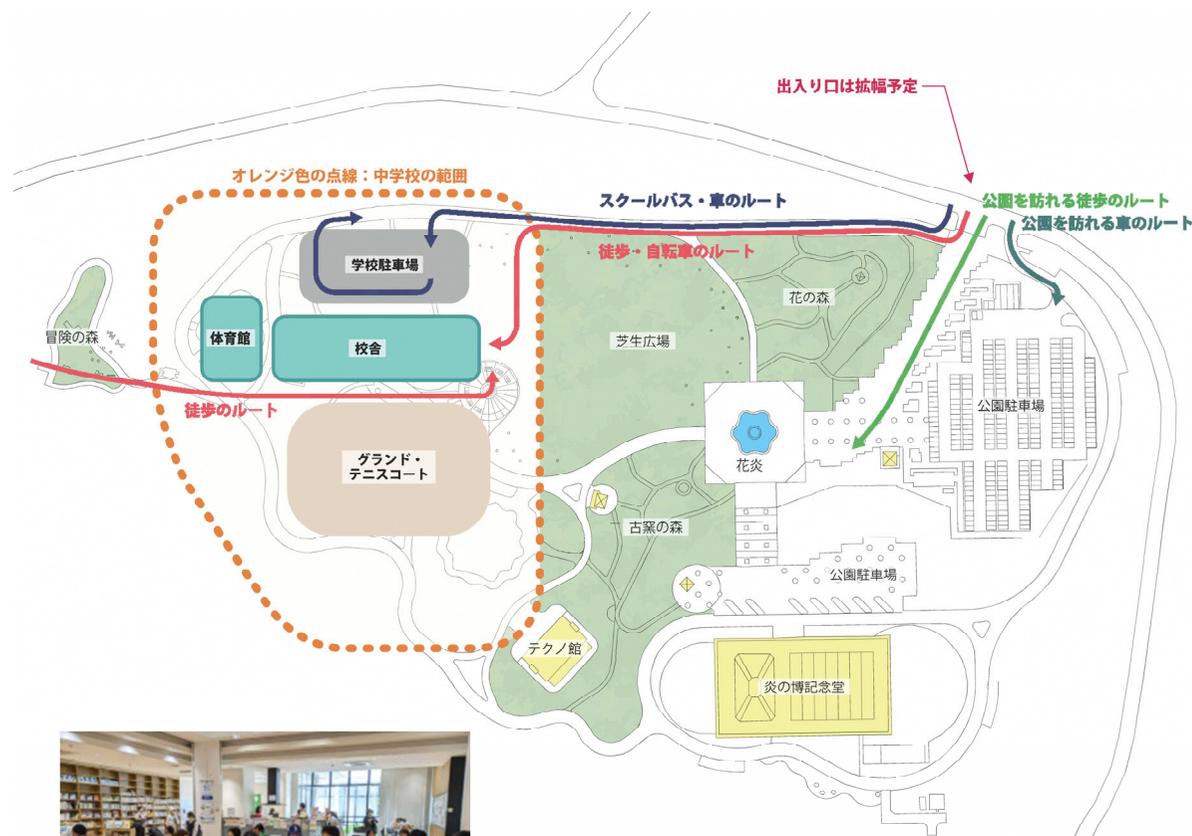
##### 地域とつながる利用エリアの配置

体育館や校舎内の一部(図書館等)は、地域住民が利用しやすい配置とし、「つどう」拠点を形成。

##### 利便性の高い駐車スペースの確保

学校用駐車場スペースに加え、イベント時や公園利用者も利用可能な駐車スペースを確保。

(スクールバスの運行を視野に入れた乗降スペースや待機スペースの確保を前提)



### 3. 「公園」と「新設校」の共存に向けた方向性を踏まえた配置方針(案)

#### 「だれもが集う」開放性と、「生徒を守る」セキュリティを両立させるゾーニング

##### 明確なセキュリティ・ラインの設定

学校敷地と公園エリアを適切に区分し、不審者の侵入を防ぐ物理的・視覚的な境界を形成。昇降口や校舎へのアクセスは職員室等から見守りやすい位置とし、死角をなるべく排除する。

##### 歩車分離と安全な動線計画

車両動線(駐車場へのアクセス)と、生徒の通学・活動動線を分離。敷地内での交通事故リスクを排除。

##### 教育活動の充実を支える施設配置

トラック(250m程度)及び直線走路を確保し、部活動や体育授業に十分な運動環境を整備する。

##### 造成コストの縮減と効率化

既存の平坦地(広場部分等)を有効活用して校舎を配置することで、大規模な造成工事を避け、コスト縮減を図る。



## 4. 「公園」と「新設校」の共存に向けた方向性を踏まえた配置計画（案1）

※青二点鎖線内:約27,000m<sup>2</sup>

○児童、車両の動線が比較的明快に整理されている。



## 4. 「公園」と「新設校」の共存に向けた方向性を踏まえた配置計画（案2）

※青二点鎖線内:約26,000m<sup>2</sup>

○既存の芝生の広場の大部分を残すことができる。

×公園入口から昇降口までの距離が長い。

×昇降口から炎の博記念堂へのアクセス性がやや劣る。

×トラック周長が既存中学校よりも小さくなる。  
※芝生の広場を縮小すれば同規模確保は可能。

×既存のテクノ館を解体する必要がある。  
×体育館、給食室付近は高低差があるため、造成が必要となる可能性が高い。  
×学校関係者、給食室の車両が公園のかなり奥まで入り込むことになる。  
×建物がハザードマップの災害エリアに近くなる。  
(近いものの範囲外)

×校舎からグラウンドが見渡せず、関係があまりよくない。

×冬季には、校庭の一部に影が落ちる。

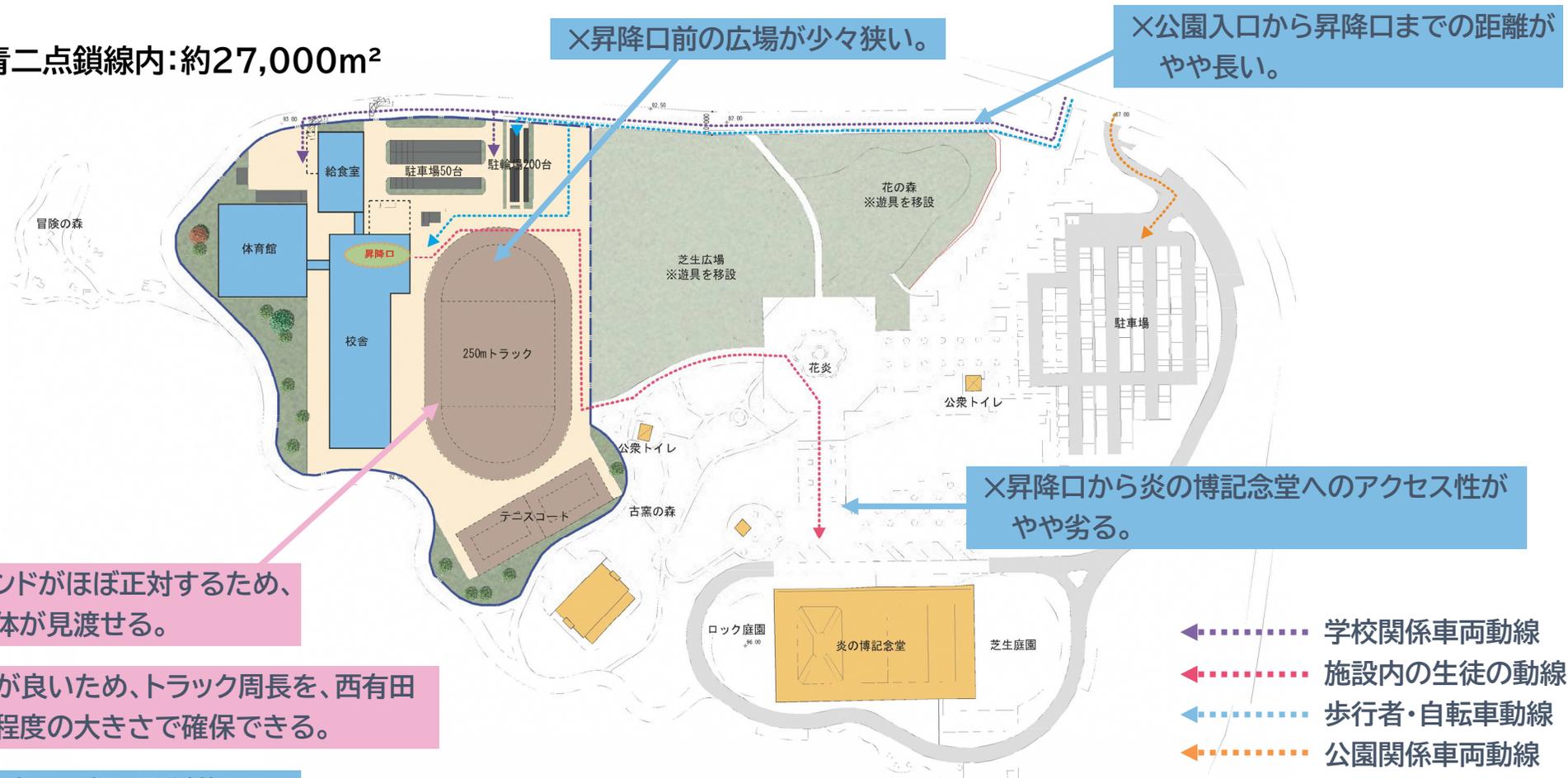
○炎の博記念堂と体育館や校舎が並ぶような形となり、大きな建物が敷地奥に配置されるため、公園中央が開けた印象となる。



- ←..... 学校関係車両動線
- ←..... 施設内の生徒の動線
- ←..... 歩行者・自転車動線
- ←..... 公園関係車両動線

## 4. 「公園」と「新設校」の共存に向けた方向性を踏まえた配置計画（案3）

※青二点鎖線内:約27,000m<sup>2</sup>



## 5. 有田町新中学校の主な必要諸室(案)の整理

### 普通教室ゾーン



#### 普通教室

- 1人1台端末(GIGAスクール)の日常的な活用を前提としたICT環境(電源・通信・提示装置)を整備する。
- 可能な範囲で木材を使用し、落ち着きと温かみのある学習環境とする。



木材を使用した温かみのある環境

文部科学省 学校施設整備・活用のための共創プラットフォーム(豊中市立さくら学園)



ICT環境の整備

文部科学省 学校施設整備・活用のための共創プラットフォーム(みどりの学園義務教育学校)

## 5. 有田町新中学校の主な必要諸室(案)の整理

### 特別教室ゾーン(STEAM教育)

#### 理科室

- ・ 実験・観察に加え、教科横断的な探求学習(STEAM教育)に対応できる広さと設備を確保する。

#### 技術室

- ・ ものづくりに加え、プログラミングや情報教育に対応できるICT環境を整備する。
- ・ 製作活動の騒音が他の学習エリアに影響しないよう、配置や遮音に配慮する。

#### 美術室

- ・ 創作活動に集中できる採光と作品展示が可能なスペースを確保する。
- ・ 地域住民との連携授業やワークショップなどの受け入れやすさに配慮する。

## 5. 有田町新中学校の主な必要諸室(案)の整理

### 特別教室ゾーン&学習 commons



#### 家庭科室

- ・調理・被服実習に加え、地域の食文化継承や防災時の炊き出し訓練など、多目的な利用を想定した設備とする。



#### 音楽室

- ・吹奏楽部の活動や地域への開放(音楽イベント等)を考慮し、十分な遮音性能と音響環境を確保する。
- ・楽器や機材の搬出入がスムーズに行える動線とする。



#### 図書館(学習・情報 commons)

- ・校舎のアクセスしやすい位置に配置し、生徒の滞在型「居場所」としての機能を強化する。
- ・地域住民への開放やイベントなどに対応できる空間とする。
- ・自学自習やグループワークができる多様な閲覧スペースを設ける。



文部科学省 学校施設整備・活用のための共創プラットフォーム(安平町立早来学園)

## 5. 有田町新中学校の主な必要諸室(案)の整理

### インクルーシブゾーン



#### 特別支援学級・通級教室

- ・ 個々の特性に応じた学習ができるよう、カームダウンエリア(落ち着ける場所)の確保や吸音環境に配慮する。
- ・ 通常の学級や職員室からのアクセスが良く、かつ静穏な環境を確保する。



#### 相談室

- ・ スクールカウンセラー等による相談活動のため、プライバシーが守られ、安心して話せる温かい雰囲気個室とする。

## 5. 有田町新中学校の主な必要諸室(案)の整理

### 交流・集会ゾーン



- 生徒の主体的な活動拠点として、議論や作業がしやすい環境とする。



- 茶道などの伝統文化体験や、地域高齢者との交流、保護者の会合など、落ち着いた和の空間として活用する。



- 学年集会、学習発表、地域との交流イベントなど多用途に利用できる広さと設備を備える。
- 雨天時でも活動できる屋内広場としての機能を持ち、「つどう」活動の中心とする。



つどう空間

文部科学省 学校施設整備・活用のための共創プラットフォーム(陸前高田市立高田東中学校)

## 5. 有田町新中学校の主な必要諸室(案)の整理

### 管理ゾーン



#### 会議室

- ・ 職員会議だけでなく、PTA活動やコミュニティ・スクールの運営会議など、地域協働の場としても利用できる位置とする。



#### 放送室

- ・ 全校放送機能に加え、生徒会活動等での活用も想定し、機器の操作性や防音に配慮する。



#### 職員室・事務室

- ・ 校庭、来校者を見通せる配置とし、有事の際に状況を確認しやすい環境を確保する。
- ・ 教職員の働き方改革に配慮し、ICT活用や打合せが効率的に行えるレイアウトとする。



職員室(フリーアドレス)の事例

文部科学省 学校施設整備・活用のための共創プラットフォーム(安平町立早来学園)

## 5. 有田町新中学校の主な必要諸室(案)の整理

### 生活・衛生ゾーン



- ・「3K(暗い・汚い・臭い)」を払拭し、乾式床・洋式便器・温水洗浄便座を基本とした「清潔で快適なトイレ」とする。
- ・多機能トイレは保健室の近くに設置する。
- ・生徒用と職員用を分けて設ける。



- ・雨天時の登下校や屋外活動の準備スペースとして、濡れないよう庇などを設ける。
- ・泥落としや防犯カメラの設置など、維持管理と防犯の両面に配慮する。



- ・プライバシーに配慮し、安心して着替えができる十分な広さを確保する。
- ・生徒用と職員用を分けて設ける。



- ・安全でおいしい給食を提供するための衛生管理を徹底する。
- ・各教室へスムーズかつ衛生的に運搬できる動線と広さに理由いする。

## 5. 有田町新中学校の主な必要諸室(案)の整理

### 屋内運動・防災拠点



#### 体育館

- 体育授業や部活動に加え、地域の防災拠点(避難所)として、空調設備、非常用電源、断熱性能を完備する。
- 地域住民のスポーツ活動にも利用しやすいよう、玄関やトイレの配置(地域開放ゾーン)を工夫する。



体育館(児童生徒・地域住民利用可能)

文部科学省 学校施設整備・活用のための共創プラットフォーム(豊中市立庄内さくら学園・豊中市庄内コラボセンター)



#### 倉庫(防災備蓄等)

- 学校の備品などに加え、避難所運営に必要な防災備蓄品を保管できる十分なスペースを確保する。



防災備蓄倉庫

文部科学省 学校施設整備・活用のための共創プラットフォーム(鳴瀬桜華小学校)

## 5. 有田町新中学校の主な必要諸室(案)の整理

### 生徒支援・キャリア支援ゾーン



#### 心の教室

- ・ 生徒が安心して過ごせる「心の拠りどころ」となる落ち着いた空間とし、情緒の安定に図る。
- ・ 個別のケアや支援が行えるよう、静穏性とプライバシーを確保した環境に配慮。
- ・ 教職員や支援員と自然に関われる距離感を保ちつつ、安心できる居場所整備。



#### 進路学習室

- ・ 生徒が自ら進路を考え、情報収集・面談・学習が行える多目的な空間とする。
- ・ 進路指導の資料閲覧やICT端末の活用など調べ学習に対応できる環境。
- ・ 個別面談やグループワークがしやすいレイアウトとし、生徒の進路形成を支援。

## 5. 有田町新中学校の主な必要諸室(案)の整理

### 新設中学校で整備する必要諸室の内訳・規模(案)-1

	有田中学校	西有田中学校	新設中学校
開校当初の普通教室数	18教室	14教室	12教室
主な施設			
体育館	○	○	○
剣道場	○	×	×
柔道場	○	×	×
グラウンド	約150m×90m 推定300mトラック	約125m×100m 推定250mトラック	250mトラック
テニスコート	2面	2面	2面
プール	25m	25m ※故障のため、現在利用なし	× ※町内プールを利用
給食室	○	○	○
窯業室	○	×	×
部室	○	○	○

## 5. 有田町新中学校の主な必要諸室(案)の整理

### 新設中学校で整備する必要諸室の内訳・規模(案)-2

	有田中学校		西有田中学校		新設中学校	
普通教室	普通・特別・通級	7+3+1室	普通・特別・通級	7+4.5+1室	普通・特別・通級	12+4+1室
特別教室	理科室	3室+準備室	理科室	2室+準備室	理科室	2室+準備室
	音楽室	2室+準備室	音楽室	1室+準備室	音楽室	2室+準備室
	家庭科室	2室+準備室	家庭科室	2室+準備室	家庭科室	2室+準備室
	図書室	1室+準備室	図書室	1室+準備室	図書室	1室+準備室
	技術室	2室+準備室	技術室	1室+準備室	技術室	1室+準備室
	美術室	2室+準備室	美術室	1室	美術室	1室+準備室
	視聴覚室	1室				
管理諸室	職員室、校長室、保健室、会議室、放送室、職員用トイレ	各1室	職員室、校長室、保健室、会議室、放送室、事務室	各1室	職員室、校長室、保健室、会議室、放送室、職員用トイレ・更衣室、事務室	各1室、会議室2室
その他諸室	多目的室	7室	多目的室	2室	多目的室	2室
	相談室	3室	相談室	2室	相談室	3室
	進路学習室	1室			進路学習室	1室
			心の教室	1室	心の教室	1室
	生徒会室	1室	生徒会室	1室	生徒会室	1室
	和室	1室	和室	1室	和室	1室

## 6. 新設の中学校 その他検討が必要な機能

### 専用施設の方針と地域連携の活用

#### プール

- ・維持管理(衛生管理・水質管理・設備更新)コストが大きい一方、利用できる期間が短く、稼働率の面で費用対効果が低い。
- ・既存の公共プールや民間施設の活用により、授業実施は代替可能。

#### 窯業室

- ・焼成炉の設置・換気・耐火・保守・安全管理の専門性が高く、学校内で恒常運用は安全・コスト両面で負担が大きい。
- ・燃料・電力コスト・材料保管・換気・臭気対策、事故対応などの運用体制整備が必要。

#### 武道場(剣道場・柔道場)

- ・専用のものを常設すると、床仕様・防音・更衣・用具保管など専用条件が多く、面積・コストが大きい。
- ・授業・部活動の実稼働時間が限定的で、多目的生徒の両立が困難。